―左から倉重議長、寺本知事―

対談 新春の抱負を語る

一九七〇年の県政展望

熊本県知事　寺本広作

熊本県議会議長　倉重末喜

希望に明けた一九七〇年――

ことしは、新県計画第一歩の年であり、これまで積み上げてきた施策の上に立って大きく踏み出そうとする県政発展の年でもある。

そこで、新空港の完成、九州縦貫道・新幹線などの開発構想から若者たちへの施策まで、新しい年にかける県政の抱負と夢を大いに語って貰った。

司会・福島広報外事課長

おめでとうございます。年頭にあたり県政を進めていかれます知事さんには、いろいろな抱負がおありと思いますので、きょうは〝新春対談〟ということで、議長さんとお話し合いをしていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

議長　昨年は九州縦貫道の着工をはじめ、緑川ダムの起工など一連の主軸事業の進歩、それに暮れには総選挙……といった具合いで、いろいろとお互いに大変でしたが、ことしは一九七〇年――新しい飛躍の年を迎えたわけでございます。

□ 県内労働力確保に重点

ところで、早速話題に入りますが、最近ですね、それも一昨年から昨年にかけて、全国的にも屈指の企業が次から次へと熊本県に誘致されて参っております。これは本県の県政発展のために非常に喜こばしいことでございまして、知事がお約束になった重点政策の一端が着々と実現をみているということでそのご努力に私どもとしては非常に敬意を表するわけでございます。

このようにたくさんの工場が誘致されておりますが、そのいずれも女子雇用の工場が非常に多いわけですね。そこで私どもとしては、男子雇用ができるような工場の誘致を知事さんにも考えていただいていいんじゃなかろうかと思うわけです。

それにはいろいろと問題がございましょうが、公共事業などで道路の整備をやっていただいて、労働力を吸収できるような工場を各地に分散する、親工場に相当する基幹工場を配置して、それを中核とした工場を市町村に配置する、という具合にやっていただくなら……そうした男子雇用の面が非常にうまくいくんじゃないかと思います。

例をとりますと、不二サッシの場合、有明海地区の核的な存在として、これの関連工場を分散するといったような、そうした工場分散によっての労働力の吸収ということに力を入れていただくならば非常によいと思うわけです。

工場誘致で工業化の促進

知事　いま議長さんから、おそらく県民の皆さんが感じておられることを、かいつまんでお話しいただいたと思います。

昨年は一月に不二サッシの進出が決まり、それが十月三十一日に起工式になりました。それから四月頃から話があったNECの進出も七月に決まり、十一月六日に起工式になりました。その他渋谷電器とかヤマハ発動機とかたくさんの工場がきたと思います。三菱の第二工場も決まりました。その中でNECとか三菱第二とか渋谷電器は女子労働をつかう工場です。しかし、不二サッシは大部分が男でございますし、年末に進出が決まりましたヤマハ発動機も大部分がそうです。

しかし、農村から男子労働力が流出する傾向が強まっている時ですから、おっしゃるとおり男子労働力を雇いあげる工場はもっと誘致する必要があると思います。ことしは、早々に男子労働力を雇う工場が決まると思います。その上地元で育ってきました機械金属関係の工場がだんだんと伸びていますから、ことしは男子労働力を雇用する事業所も相当ふえるのではないかと思っています。

昨年の正月、ご用始めの時、縦貫道路も飛行場も県が力を入れた事業だけれどもこれはあくまで手段であって、この飛行場や縦貫道路を使って県民の生活向上、経済繁栄というような目的と結びつけねばいかんということを年頭の挨拶に申しておきましたが、昨年、一昨年にはこういう大きな事業が決め手になって、相当工場がきたと思います。

ことしは、昨年起工式をやった、ないしは進出の決まった工場が動き出す事でございますし、それに加えて波及効果というものはこんなものかと思いますが、工場が来始めますと次々と続いてくる傾向ですから、労働力不足に悩むようになりはせんだろうかと思います。昨年は年度半ばからの人集めでしたから、非常に苦労しましたが、ことしは年度初めから県、市町村、学校をあげて、県内の男子労働力、女子労働力双方の確保に力を入れねばならないと思います。

□ 中小企業の体質改善を早く

議長　ここで一つ、私達が心配になりますことは、もちろん大企業の誘致というのは、非常に結構なことだと思いますが、既存の企業――特に中小企業の方から批判がでるのではなかろうかというようなことを心配するわけです。既存企業のことも十分に知事さんのご考慮いただきたいところだと思うわけでございます。

知事　いま進出してきた企業は、日本一流の企業が多くて、賃金水準も高い。その影響を受ける在来の中小企業は労務の確保にも骨を折れるし、ベース・アップの要求にこたえるにも非常に苦労をしておられると思います。しかし、在来の企業そのままの姿では、だんだんと県内から労働力が県外にでていくばかりでございますし、ここは在来の企業の皆さん